

②第1分科会 「いじめ等人権侵害で問われる学校の責務」

上越教育大学教授 梅野 正信 先生

1 人権教育と生徒指導は密接に関わっている。

- (1) プロセスを知ることが大切ー裁判等
- (2) 知識をもっているが共有されていないー若年層の教員

2 裁判になった実例

- (1) 自殺した女性教師の裁判
 - ①いすを取り上げられたー職員室で生徒が「どけ」と言って勝手に座る
 - ②体育祭の『タイヤ引き』でタイヤを引かないー教師に対する嫌がらせ
 - ③判決は、他の教師が大丈夫だったという考えを採用せず公務災害と認定。
- (2) 生徒から刺されて死亡した事件ー加害生徒の親への損害賠償請求が認められる。
- (3) 生徒が刺された事件ー校内を金属バットで威嚇し目立つ生徒をナイフで刺す。
 - ①所持品検査をして安全配慮をしていたかどうかが争点。判決は学校側の過失と認定。
- (4) いじめによる自殺ー母親が解決したと思った翌日に自殺…いじめが続いていた。
- (5) 犯罪被害者の立場の人権の見直し…被害者の人権は軽視されて良いのか。



3 人権としての教育

- (1) 教育を受けること自体が人権保障の前提
- (2) 教育の機会均等や学力保障が合理的判断や人権感覚の前提

4 人権尊重の精神に立つ学校生活の構築

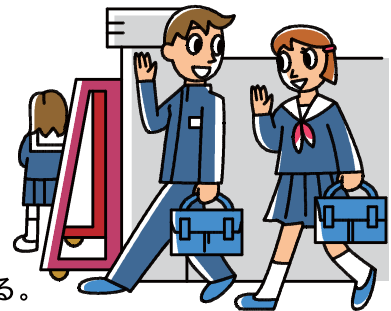
- (1) 人権尊重の精神が浸透した環境を整える。ー学級経営，生徒指導，進路指導

5 学習内容・方法としての人権教育

- (1) 授業や教科外活動等に人権教育学習を取り組む。

6 人権尊重教育の視点

- (1) 自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることを教える。
- (2) 他人の人権をめっちゃめっちゃにする行為に対しては、毅然とした態度を取る。正義(ジャスティス)
- (3) いじめ…「平気」と言って笑っている子どもの悲しみと痛みを想像できるようにする。
- (4) 生存権と人格権ー絶対守るべきもの。
- (5) 人権の知識は豊富だが、人権感覚が希薄。



7 崇高な使命ー人権を守る…学校，教師

8 「今こそ人権教育を」…本日の総括

9 震災記事で大切なこと

- ・心身の臨界（限界）点は一人一人違うことを理解し，受け入れる。
- ・何時間かかっても省かずに説明する。非難や批判は簡単にはできない。

〔講師のおもな著書・編著〕

「裁判判決で学ぶ日本の人権ー中学高校授業づくりのための判決書教材資料」（明石書店）

「いじめ判決文で創る新しい人権学習」（明治図書）

「日本映画に学ぶ教育・社会・いのち」（エイデル研究所）

「教師は何からはじめるべきか」（編書 教育史料出版会）

③第2分科会 「クラスをつくる～君は担任としてどうかかわるか～」



大阪府立柴島^{くじま}高等学校教諭 内田 清彦 先生
柴島高校は開校以来 34 年間、一人ひとりの個性を大切にし、どの子にも、「自ら考え判断し行動できる力」を身につけさせる、という人権教育の方針に基づき、さまざまな取組を進めてきた。

1 入学式から1週間後の、「学校開き」

これは2・3年生の先輩が、全校生徒の前で自己開示（自分を語る）を行うものである。自分が背負っているもの、置かれている環境、自分が大切にしているもの、これからの決意などを発表する。1年生は初めて見た先輩が、自分についてしっかり向き合っている姿を見て衝撃を受ける。生徒会の生徒が自分たちで進行していくが、張り詰めた空気の中で進んでいく。

2 さらに2週間後のクラスミーティング

クラス合宿の夜のミーティングでクラスメートに自分を語る機会を持つ。

- (1) 自分をとことん振り返らせる。それには自分自身が一番わかってないと語ることができない。ステージに向けて、それぞれが自己肯定感を高める準備をして臨む。
- (2) しんどいこと自慢にならないよう、「周りと一緒にいく上で、語りたい決意」「伝えることで、自分の居心地がよくなると思えること」を相手に伝える。
- (3) 肯定的に受け入れる自分とクラスの雰囲気づくり、この作業を通じてありのままの自分を受け入れてこそ自己肯定観が身につく。失敗はつきものだが今の自分がある自己を肯定的に受け入れる1つの作業。しんどい話を聞いてお互いが真剣に自分を語る。暗黙のルールとして、真剣に話をし話を聞くという前提が必要。
- (4) 保護者の理解、不安は多いはずなので、学校へ来校して、見学してもらう。
- (5) 担任と生徒の距離、担任も自分自身のことを語る。家庭訪問や地域で情報を集めるなど生徒の状況を把握する必要性。時間と足と会話。距離は遠いが心は近い。
- (6) 個に応じた生徒の課題設定、みんなと一緒に高校生ではよくない。違って当たり前。違いを認めてやっつけていこう。教師の思いを押しつけない。

3 クラスづくりについて考えていること

- (1) 情報を取りにいく（背景をつかむ）、自分のクラスを繁盛させるために情報を
- (2) 生徒を想う多くの議論と行動、学校・学年スタッフで多くの議論を
- (3) そのままコピーはダメ、生徒が違えば空気が違う、コーディネートやアレンジを
- (4) 細やかなアップデート、時代が替われば空気も替わる、アップデートを加える
- (5) どんな生徒に育てたいかと聞かれたら正しい判断と社会貢献できる人材
- (6) 壮大なプロジェクト、多感な時期の生徒をうけもち、社会貢献できる人材をつくるというプロジェクトに参加しているという意識をもっている
- (7) 社会を変える力、教師として社会を変える力を育成していると自負している

4 柴島流「集団づくり」のモデル

- (1) 自己開示、1人称
- (2) それを受け止める仲間、2人称
- (3) 仲間から空気（集団）へ、感情から理性へ、公共心の育成・リスペクト 3人称
相手が真剣なら自分もという空気をつくる、好き嫌いではなく違いを認める
リスペクトは尊敬だが、立場、目線は一緒に互いが尊敬し合う

〔参考図書〕

「生徒の自己開示」で始まる学校開き－〔よのなか〕科との協働で拓く 21 世紀型人権教育〕
成山治彦監修 大阪府立柴島高校編集（明治図書）

平成22年4月の学校開きでT・Sさんが語った話

2年のTです

突然、先生から学校開きで話をしてみないかと誘われて話すことになりました。正直、言われた時は何を話したらいいんやろと考えました。1年生のHR合宿で話したことや、将来のこと。でも、こんな機会はめったにないから自分のこと・思っていることを話したいと思います。

私は日本人とフィリピン人の両方のルーツを持っています。最近になって日本とフィリピンとスペインのルーツがあると父から聞きわかりました。母方の祖母がスペイン人で祖父がフィリピン人なのです。会ったことが無かったので、会ってみたかったです。

そして、今私は父と二人で暮らしています。2人暮らしなので、自分の身の回りのことは自分でします。父がいないときは、すべて自分で家事をしています。家事をすることが多くなってから料理が得意になりました。父が帰ってきたら食べることができるようにご飯の用意をしています。家事、クラブ、勉強とやることが多くて大変だけど、本当に充実しています。

母は小4のときにフィリピンに帰ってしまいました。その時は何故帰ったのか理解できませんでした。でも、あることがきっかけで父がすべてを話してくれました。それは、去年の夏ごろ、鎖骨の辺りに腫瘍のようなものができ、激痛で我慢ができず父に相談しました。すると父はかなり動揺しました。私は父に「なんでそこまで心配するの？」と理由を聞くと、私の母が日本にいる時に同じ位置に腫瘍があったと聞かされました。手術をして摘出できたはずなのにまた再発したみたいです。病院は原因も病名もわからないとのことでした。母はすごく混乱していて・・・。不安に思っていたことがあります。それは、母方の祖父が私たちと同じ位置にある腫瘍が原因で亡くなっているということです。それで母はフィリピンに戻った方がいいのかもしれないということになり、帰国しました。私はその話を聞いてすごくショックで怖かったです。でも、それだけならまた日本に来ることが可能なのに来ることはありませんでした。私はきっとそれだけで帰国したんじゃないと思います。私が覚えている母は、私のことを一番に考えてくれ、愛情をたくさんそそいでくれました。いつもにこにこ笑顔でいてくれて、そんな母が大好きでした。だからそれだけなら帰ってきてくれるはずです。きっと父との間に何かあってさらに腫瘍のことが重なってしまったんだと思います。結局、私の鎖骨にできたものは悪い腫瘍ではなかったのですが、遺伝的に母と同じものができてもおかしくないと言われました。

母がフィリピンに帰ってから、母からの連絡は一度もありません。元気なのかどうかもわかりません。私は母が元気に過ごしているならそれだけでいいと思います。でも、やっぱり会いたい気持ちは小4の時から増すばかりです。だから私は中学の頃から好きで得意だった英語をすごく頑張っています。普通に会話できるくらいになったら、母に会いにフィリピンに行こうと思っているからです。会えたら、離れている間のことや自分の気持ちを話したいです。母の手料理も食べたいです。そう思っているから英語は楽しく頑張ることができます。もし、母と一緒に住んでいたらそこまで英語に興味を持たなかったかもしれないし、目標のために頑張ろうとは思わなかったかもしれません。そう考えたら母に感謝しています。

私はこういう目標があるからこそ、とことん頑張ることができます。このことがなければ頑張っていることがあってもいつかやる気をなくしたり、ものごとを諦めていたでしょう。目標を見つけてそのために頑張れば、つらくなったりしても目標を思い出して諦めることなく頑張ることができるようになりました。

1年生のみなさんはもうすぐHR合宿があります。自分のことを話す機会なんてそんなになので、恥ずかしがらずに自分のことをとことん振り返り、語りましょう。柴島高校はそれができる学校です。これから3年間過ごすけど、部活や勉強、趣味、なんでもいいから目標を作ってください。あるのと無いのとではこの3年間の過ごし方が変わると思います。何かあったら先生に相談してください。真剣に聞いて一緒に考えてくれると思います。

2年生は1年生の時に選択した授業が始まっています。将来のことを考えて選んだはずですが、全力を尽くして頑張りましょう。

3年生は高校最後の年になりました。この2年間はあっという間だったと思います。進学する人や就職する人、さまざまな人がいると思いますが、今まで頑張ってきたものを生かして、さらに飛躍してください。

